

図書館だより

特集

2009年9月1日
第82号
成田高等学校
図書委員会
成田市成田27番地



「赤い鳥」

今号は、本校ゆかりの文学学者・鈴木三重吉先生の児童文学雑誌「赤い鳥」を特集しました。

鈴木三重吉先生は、夏目漱石の門下で、

百年前の明治四十一年から同四十四年まで、本校（成田中学校）の教頭兼英語科教師として教鞭をとっていました。

本校に勤務のあい間に『赤菊』『黒髪』『文鳥』を『国民新聞』に、『子猫』を『ホトトギス』に発表しています。また、『国民新聞』に『小鳥の巣』を連載しますが、その三分之一程は校務のかたわら書きあげ、あとは当時の石川照勤校長の計らいで、休職の扱いを受けて創作に打ち込みました。

その後、本校を退職し、大正七年七月「赤い鳥」を創刊しました。

特集にあたり、広報班の生徒諸氏は、本校の関連施設であり、雑誌の原本が所蔵されている「成田山仏教図書館」を訪ねて、鈴木三重吉先生に関連する蔵書を取り・閲覧させていただきました。



大正時代なかばに刊行された雑誌の一つ「赤い鳥」があります。

「赤い鳥」とは、作家の鈴木三重吉によって創刊、主宰された児童向けの文芸雑誌であり、主に日本の作家による創作童話や童謡、海外作品の翻訳が掲載され、その他に読者から寄せられた優秀な作文を載せるページが在ります。

がいたします。

日本には子供の為の優れた物語を提供した作家は一人もないとのプリントにおいて断言した三重吉が、児童の感受性に与える読み物の貧困さ、俗悪さを嘆き、一流の作家や絵師の協力の元に創刊されたこの雑誌は、結果として幾多の名作を世に送り出し、児童文学の向上に多大な貢献をします。

「赤い鳥」の最大の成功の要因は読者である子供を決して軽視していない事に在ります。

当時の子供の雑誌への投書について、三重吉は先程のプリントでこう書いています。「投書欄の大半は」厭にこましやくれた、虫づの走るやうな人工的な文章ばかりで埋まってゐます。私たちは、こんな文章を見

るべらぬ厭なことはありません。」

鈴木三重吉は雑誌創刊に際して、関係者に配ったプリント『童話と童謡を創作する最初の文学的運動』において、創刊の動機を次の様に表明しています。

「(現在の児童向けの読物や雑誌は)飽くまでセンセイショナルな刺戟と変な哀傷とに充ちた下品なものだらけである上に、その書き表はし方も甚だ下卑てゐて、こんなものが直ぐに子供の品性や文章なりに影響するのかと思ふとことに、にがにがしい感じがいたします。」

雑誌の巻末に読者の作文を募集する場を設けた理由には、子供の豊かな感受性を自在に発揮できる投書欄を作ろうとする意志が感じられます。

「私は、少しも虚飾のない、眞の意味で無邪気な純朴な文章ばかりを載せたいと思ひます。」

募集作文の選考は全て鈴木三重吉が行い、選ばれた原稿は最低限の誤字の修正、不要な箇所の削除の後、載せられました。その選考後の所感にて、以下の様に述べています。

「すべて大人でも子供でも、みんなかういう風に、文章は、あつたこと感じたことを、普段使つてゐるままのあたりまへの言葉を使つて、ありのままに書くやうにならなければ、少くとも、さういふ文章を一ぱんよい文章として褒めるやうにならなければ間違ひです。」

社会的な規律に当て嵌められ無個性化した、感受性の希薄な文章よりも、誰の手も加えられていない純粋さの含まれた文章を評価し、その可能性を伸ばしていこうとした鈴木三重吉の意志が、「赤い鳥」という精神性を持つ文学的運動を起こしました。

(三上 口谷／三上 須田)

「あつ」と声を上げてしまつような結末。みやすく、その末に行き着くのは、思わず



鈴木三重吉について

今回この図書館だよりの記事を書くに当たり、私たちは学校図書館にあった作品集や成田山仏教図書館に所蔵されている「赤い鳥」を読み、初めて鈴木三重吉という作家の作品に触れてみました。その中で特に印象に残ったのが、『狐とお菓子』と『岡の家』(旧題『丘の家』)の二作です。

前者は、題名にある“お菓子”を主人公としたコミカルな童話。ある小屋に住む鼠と牝鶏と二十日鼠は、ある日の牝鶏の提案により、お菓子作りをすることに。ところが完成した途端、なんとお菓子自身が食べられることを嫌がり小屋から逃げてしまつて…。ページ数としてはとても短いお話ですが、軽やかな筆致で綴られた文章は読

非常にユーモアに富んだ作品です。

対して後者は、鈴木三重吉が『丹野い子』という女性を装つた別の筆名で「赤い鳥」に掲載したものであり、そのためか、者とはまた違う静かで優しい雰囲気に満ちた作品です。主人公は、働き者の男の子。

彼の一日の楽しみは、夕方の一時間だけも

らえる休み時間に、岡の向こうにある『金の窓の家並』を眺めることでした。そんな

ある日、両親から丸一日分の休みをもらつた男の子は、岡の向こうまで行つてみると。

けれどどんなに探しても、そこにいつも見ているはずの『金の窓』は無く…。

大きな事件がある訳でもない、子供だからこそその視点で描かれた物語は、読み終わつた時に温かな気持ちを胸に残してくれます。

作品集や「赤い鳥」の中には、前記二作以外にも、様々な鈴木三重吉の作品が載っています。それは歴史物だったり、ノンフ

ィクションだったり、社会風刺であつたり、一口に『児童文学』と言つても、彼の手がけたジャンルは種々様々です。そして、全ての作品から、彼の児童文学への熱意や意欲が感じられます。

現代児童文学の礎に、あなたも手を伸ばしてみませんか？

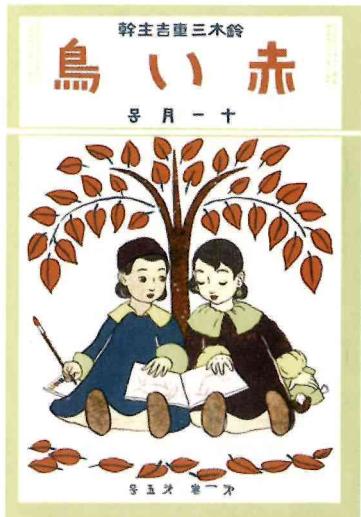
(三上 相川／三上 鈴木)

「赤い鳥」創刊の理由

大正七年七月一日、児童のための芸術雑誌「赤い鳥」が創刊されました。

作家・鈴木三重吉は、大正五年に初めての我が子の誕生を喜び、早速、まだ眼も見えない赤ん坊に読んであげる本を探しに街の本屋を歩き廻りました。しかし、子ども品性を傷つけるような俗悪なものばかりに驚き、失望しました。

やがて、鈴木三重吉は日本の子どものために純麗な読み物を創らなければならぬと決心し、当時を代表する芸術家の賛同を得て、月刊雑誌「赤い鳥」を発行することになります。



主な童話作品としては、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』『杜子春』、有島武郎の『一房の葡萄』、新美南吉の『ごん狐』、創刊者で

『蜘蛛の糸』

(「紅い鳥」第一巻一号に掲載)

この話、読んだことはなくとも話の内容を聞いてみれば、どこかで聞いたような話だ、と思う人もいるのではないかでしょう。今でも、人形劇や日本昔話となつて親しまれています。作者は芥川龍之介です。

彼は一八九二年から一九二七年の間にかけて『羅生門』や『地獄變』、中国の説話によった話である『杜子春』などを発表して

ある鈴木三重吉の『お馬』『ぱっぽのお手帳』などがあります。また童謡では、北原白秋の『からたちの花』、西條八十の『かなりや』などがあります。

これらの一流の文学者達による作品は、児童文学全体のレベルを高め、近代児童文學、児童音楽の創世期に最も重要な影響を与えました。

この「赤い鳥」は一九一三年の十月号を関東大震災により全焼、同年十二月号を休刊、一九二九年から一九三一年の間一時休刊しますが、鈴木三重吉の死(一九三六年)まで、一九六冊刊行され続けました。

(一〇 安藤／一〇 山本)

『蜘蛛の糸』は大正七年に童話・童謡雑誌の「赤い鳥」に掲載するために書かれたもので、芥川龍之介が手掛けた最初の年少者向けの作品です。最初の作品であるにもかかわらず『蜘蛛の糸』は「赤い鳥」の主宰者である鈴木三重吉に非常に高い評価を受け、数ある芥川の年少文学の中でも第一等のものとされています。

この話は、極楽にいる御釈迦様がふと世界を見ると、地獄で羅陀多(カソダタ)という男が血の海で苦しんでいるのを目にかけます。この男は生きているときにはいろいろな惡事を働いた大泥坊でしたが、それを思つた御釈迦様は、羅陀多が極楽にのぼつて来られるように蜘蛛の糸を地獄に垂らします。地獄の羅陀多は天から降つて来た糸で脱出を試みますが、途中で糸が切れてしまひ地獄に落ちてしまいます。なぜ羅陀多は地獄からの脱出に失敗したのでしょうか。

それは彼が浅ましかったためです。



蜘蛛の糸

「赤い鳥」に収録されている数々の作品中でも、有島武郎の『一房の葡萄』は特にやさしさや愛に満ちあふれた作品です。

主人公の「僕」は、絵を描くことが好きな少年です。彼と同じ学級のジムという子

私は、主人公が部屋にいた間、先生はジム達に「僕」がいかに反省しているかを伝えたのだと思います。作品の最後の「昨日の葡萄はおいしかったの」という問い合わせの言葉もとても効果的で、やさしく美しい作品になっています。



房の葡萄

有島武郎の書いた童話は『一房の葡萄』を含めて、全部で八作あります。彼の妻が肺炎のため亡くなり、残された幼い子供達の為に精神の糧を与えたいたいという理由からこれらの作品を書き上げました。ここで紹介した『一房の葡萄』以外にも、彼は『或る女』『カインの末裔』といった名作など数多く残しています。これを機会に、有島武郎の作品を読んでみて下さい。

飯田 椎名

糸をのぼっている途中、他の罪人が糸に群がってのぼってくるのを見て、彼は「降りろ」と言います。その無慈悲な心があつたばかりに、糸は切れてしまったのです。「自分だけ何々したい」と思う心は、人間の誰もが持っていますが、時にそれは、自らを滅ぼす原因となるのだなどこれを読んで考えさせられました。

この作品は非常に短く、あまり読む時間が必要としません。子供のころに見た紙芝居とは、また別の面白さがあるので是非、一度読んでみることをお勧めします。

「自分のしたことをいやなことだったと思つていますか」そう言った先生は泣いている僕に、二階の窓まで高く這い上がった葡萄蔓から、一房の西洋葡萄をもぎって、しきしくと泣き続けていた僕の膝の上にそれを置いて静かに部屋を出て行きました。

その後、先生の部屋で泣き寝入りした僕に、先生はちゃんと明日も来るようになつて家へと帰します。次の日、やさしい先生の顔を見たいという思いだけでいやいやながら学校に来た僕を、ジムが手をにぎり先生の部屋へとつれていきました。これを見た先

かわせみ
翡翠の思い出

学校図書館長 高橋 春樹

すいぶん前のことだ。

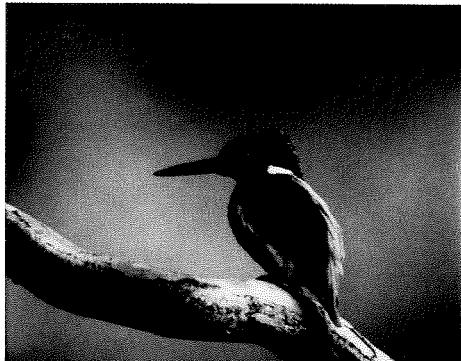
成田山公園三ノ池の畔に、何やらしいそ
うな荷物を運び込む人がいた。いつたい何
だらうと様子を伺っていたが、どうやらそ
れは、カメラの器材であると分かった。手
際よくそれらをセットし終え、三脚の上に
のったカメラからは、不釣合いなほどの長
さの望遠レンズが突き出ている。その男性
に声を掛けてみると、カメラ愛好家だとい
う。

「そんなすじいモノで何を撮るの?」との
私の問いに、「*カワセミを狙っているんだ」
といい、「昔はどこの川や池の周辺にもいた、
ごく身近な鳥だったけどね、活きた小魚し
か食べないし、今のような街には棲めない
でしょ?」何故かと尋ねる私に、「小魚
が少なくなつたし、赤土の土手がコンクリ
ートの擁壁にかわって、巣作りができなく
なつたのが致命的なかもね。」と言う。「で
も、こここの力ワセミはツガイで、何度も離
が離つてゐるし、池の*モヅ門に不自由しない
からね。」

私はこの話を聞いて、この池にそんな小鳥
が出没することが、急に尊いことに思えた。

そしてその日から俄然、カワセミのファン
となつたのである。再び三ノ池に佇んだあ
る日、偶然にカワセミ目撃のチャンスはや
ってきた。

水面にかかつた百日紅(さるすべり)の枝
の先に、この鳥がスーと飛んできてチョ
コンと止まつた。暫らくじーっと水面を
見つめているが、ときおり頭を上下させる。
しばらくすると突然、枝を離れて高く飛び
あがつたかと思うと水の中へと急降下、次
の瞬間に銀色に光る小魚を嘴にくわえて
枝に舞い戻る。そして、頭を振つて魚を枝
にぶつけて器用にそれを呑み込んだ。この
鳥が、じいーつとしていた時間からみれば、
飛び立つてから小魚を捕獲して、呑み込ん
でしまうまでの一連の動作は、かなり素早
いものだ。



後日、声を掛けたカメラマンから、カワ
セミの写真が届けられた。嘴が長く鋭く、
その背中は翡翠色に輝き、なんともいえぬ
愛らしさ。とてもバランスのとれた美しい
姿である。おそらく彼は、この一瞬のシャ
ッターチャンスのために何時間も、いや何
日も粘つたのかもしれない。

成田山の公園に残る自然が、この小鳥を
育んでおり、いまもときおりその愛くるし
い姿を見せている。ずっと、いつまでもそ
うあって欲しいものだと思っている。

*カワセミ River Kingfisher

『世界鳥類事典』請求記号48088

川沿いの土手や砂利杭の水面近くに巣穴を
掘る。水から離れた所で採餌することは滅
多にない。魚を捕るのは非常にうまい。

*モヅ門 Pseudorasbora

『原色魚類大図鑑』請求記号48074
関東地方ではクチボソ、岐阜ではヤナギモ
ロコ。体色は黄褐色、腹面には鈍い金属光
沢がある。

「赤い鳥」展を開催

「図書館だより」の鈴木三重吉特集と連携して、学校図書館二階閲覧室では、「赤い鳥」展を開催します。開催期間は九月一日から同三十日まで。生徒の皆さん、休憩時間や課外時間を利用して、是非ご覧ください。鈴木三重吉先生の児童文学にかけた篤い情熱が伝われば幸いです。なお、この間に一般公開日（九月六日から十二日までの開館日・開館時間）を設け、地域の方々にも展示をご覧いただきます。



「赤い鳥」展に向け準備中の閲覧室

《役員お疲れ様でした》

前期役員の方々、大変ご苦労さまでした。

副班長	副班長	副班長	副班長	副班長	副班長	副班長	副班長
読書・アピール班	管理班	コンピュータ班	受入班	広報班	委員長	委員長	委員長
FFB	F FH	CAB	CHH	AAD	FGH	米本雄太郎	竹内みどり勇
上丸田原果奈	藤崎小林えりか	金杉智之	齋藤山崎可央	相川飯田	渡辺早井	渡辺	米本雄太郎
山里杜紀紗	健介春菜	雄太	太郎	桂子	勇	竹内みどり勇	竹内みどり勇

△ 編集後記 ▽

『「赤い鳥」展』と連携、九月発行となりました。取材に訪れた「成田山仏教図書館」は、石川照勤校主兼校長が、本校設立の三年後の明治三十四年、千葉県下で最初の図書館として一般に公開した施設です。蔵書数三十二万冊余り、雑誌三千七百余種、新聞二百余種、重要文化財の「住吉物語」「伊能忠敬日本実測輿地図」をはじめ、他の図書館では見られない、大変貴重なコレクションを数多く有しています。皆さんにも是非利用して欲しい施設です。

高橋記

入館者数

月別	4月	5月	6月	計
高校	男子	350	355	438
	女子	220	234	234
中学	男子	252	250	339
	女子	133	160	183
計(人)	955	999	1,194	3,148